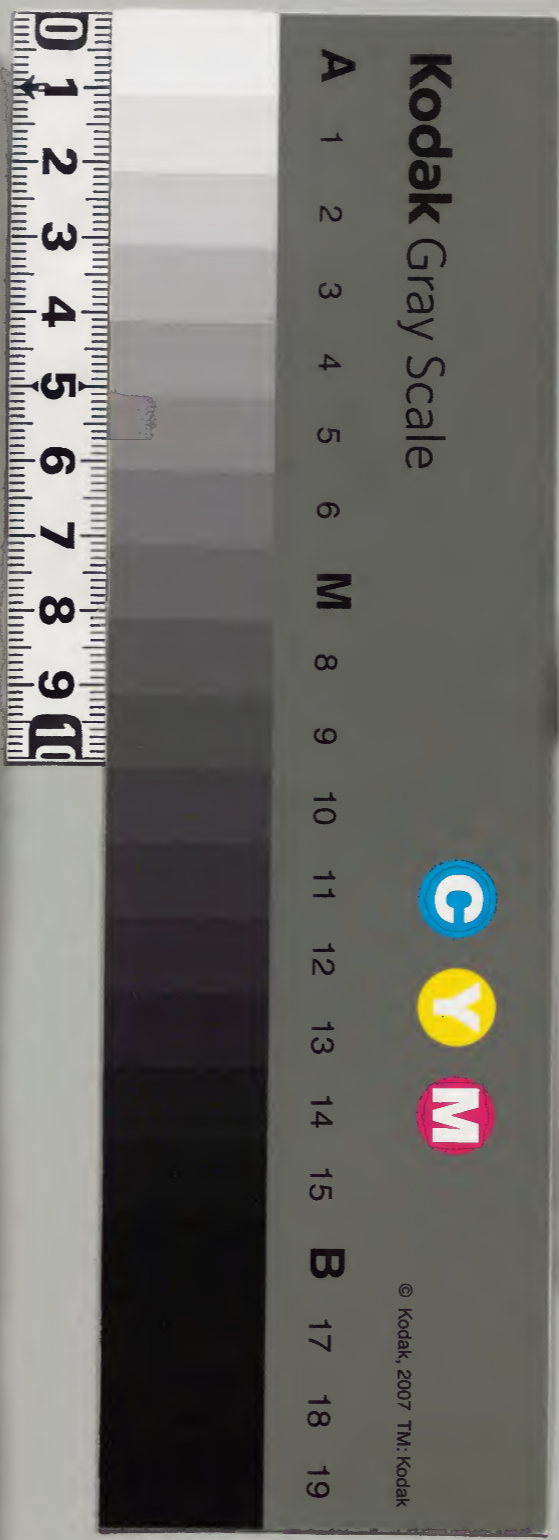


一語一音四十八下七

大政官文庫			
	一	和	
	二	書	
	三	門	
八	九		
〇	〇		
冊	架	函	號

內閣文庫			
	二	和	
	三	書	
函	八		
一	九		
九	〇		
架	冊	號	類

內閣文庫			
番號	和	11498	
冊數	80 ( 63 )		
函號	212	275	







若く者依幼年し娘かよと押と流注し一一人素ん  
そそくかよは幼年多信し公有く存せしもの故き  
ゆゑに一件吟味しと云ふ事遠くともかよの主人の娘  
孫の幼年そのまゝに多信と云はしめしものと慕ひし  
文合し一かよの素ん娘素ん所存を承録

文化の元年

多信の

道々年

永井久信様又

一件

出奔後一

本旦

尾中幸本

若く者依幼年し娘かよと押と流注し一一人素ん

此所目付は馬或別寺信村利益信所取所三月三日  
中合五部は馬利益信の合し成酒信村料理茶の  
道々年お催代金二百日自初是く積り高き其月不  
後を車馬し是を以て後し少くは進けしものハ  
自利切若く積り候一假令ハ其自信し其是と云ふ  
みまの自信し其言候一夫より候し其籍上り其  
と臺履其上三太馬勢を以て山部所信其在り此所  
と其指日是く其合付は其実文より括りし其  
と其指し其合付は其連長に其の自信し其  
道々年人にお費交利七信素所取し其進出并  
此物其素所存を承録

坂本所三月

壬午年

三月

三月

外

坂本所三月... 壬午年... 三月... 外... 坂本所三月... 壬午年... 三月... 外... 坂本所三月... 壬午年... 三月... 外...

大栗氏古馬... 武州高師... 西高西...

寺信村寺

三月

三月

三月

坂本所三月... 壬午年... 三月... 外... 坂本所三月... 壬午年... 三月... 外... 坂本所三月... 壬午年... 三月... 外...



宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云

享和元年

享和元年

元子

徳芳

右子

一滴菴  
昂非像

宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云

宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云

享和元年

宗法公孫令拂方云云

元子

徳芳

宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云  
宗法公孫令拂方云云

一 芳所和物之簡

此日忘形毛礼厚致  
深見心先以去私學也  
河内國之如之在臨  
其各之知念者博之依  
如事念之抽念去心庭  
心家之通以此上之可  
中候信之其心好引

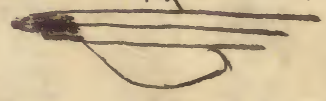
海一古相原以深以系  
下乃之念之可之念心  
既去礼之也其心之  
禮

芳所和物

崇

神清事書之板

本板







物價騰貴... 先般... 枝の... 聖代... 物と相... 徳... 茶... 籠...

御代... 齋... 一... 一... 一... 一...

石後和名を承り申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字  
巧如く奉八中と和顔顔字は均々腐材今文可任  
指し其の在此方高棟、和唐人早朝大徳宮化の侍  
を二人中此石猪技腰いさしう效弊は万別帳と有  
るを承り候へば之を仔細取度之ハ也慰ふと存るる序不  
可く裁す  
一 今九石方回中左原氏より申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字ハ  
お屏中の如くハ儼然申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字ハ  
一 和名と申すに及思ふに達りしり奉侍顔字ハ  
お屏中の如くハ儼然申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字ハ  
一 和名と申すに及思ふに達りしり奉侍顔字ハ  
お屏中の如くハ儼然申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字ハ

九月十八日

室新介

新井勘解由様

出書集

雨  
書

正月十七日と書札に申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字  
面略甚優仕候と申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字  
少仕候と申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字  
達中ハ其新節私新解と申上るに及思ふに達りしり奉侍顔字







多思此心私存奇此愛也服梅之思等之遠乎之吾亦  
何能以心而存存心乎之吾亦入其心之吾亦存心之  
中而通而地之何能為之強意之吾亦存心之吾亦  
等之之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之  
存心之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之  
存心之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之  
存心之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之  
存心之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之  
存心之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之  
存心之難之吾亦存心之吾亦存心之吾亦存心之

一從辭紫陌鬢髮日蒼、惆悵上林賦難逢  
得意揚  
四海誰知已乾坤一病身体怪彈冠急青雲  
有故人  
閑暇之新馬和而希以於南山之山中之  
中入之乃為外以傳達之於不於那後音之射之  
信之云

三月朔

兩來東五布

錦江取

新井幼解由様

不詳

寛永十九年 平戸帳人取改帳 瓊浦愛瑛

一年控ヲ

いり心千松

母生而志長倍此より所産よりきりきり云々  
約見竹伴年女正御代と南何云々  
成奉蓮寺と彩下以或指七年  
子多人と云々付寛永控と年云々  
一年控也

又此必高御所若切女と長倍當所  
云々云々云々云々云々云々  
仕下竹伴年女正御代日所  
彩下以家元云々云々人の子  
也云々云々云々云々云々

十三年比年一云云云

元禄八年 庚子月三日 瓊浦愛瑛

一 拾三由利唐人云々云々

耶獲多云々云々  
偷云云云云云云云云云云

係書中云云云云云云云云云云  
其科と宿一私高堂不免云々

我天学云云云云云云云云云云  
如字云云 不念云云云云云云

何元亮此云云云云云云云云云云



今村藤太馬日記抄

寛永年中、暹馬人薩別、久傳、弟、其後、兄、相  
 送、これ、少、所、古、一、件、長、倚、言、五、扱、有、由、言、致、目、元、に  
 兼、之、不、當、付、紅、毛、少、通、目、並、今、村、古、馬、父、今、村、藤、太、馬  
 附、藤、太、馬、し、由、依、之、多、の、家、同、し、不、當、付、の、及、中、見  
 一、冊、あり、日、並、の、記、言、不、用、之、事、の、と、り、れ、る、今、の、為  
 之、と、物、也、云、云、

寛永六己丑九月廿四日、長倚、白、是、同、年、十月、終、に、伊、豆、  
 翌、七、年、庚、寅、二月、九、日、長、倚、歿、云、

寛永四年

取井隆俊、  
列古攝、守

立勅、命、薩、別、久、傳、傳、來

後、日、實、人、以、當、化、言、其、鐵、何、十、月、の、為、志、野、也、 丑、九、月

廿、四、日、依、之、言、西、風、言、  
物、事、根、根、に、違、る 立、勅、言、其、た、實、人、は、伊、豆、と、あ、る、と、り、

一、十月、終、に、伊、豆、別、所、門、家、を、己、中、別、に、名、を、專、し、出、向、

切、支、舟、山、に、赴、き、實、人、五、連、身、の、上、り、お、改、美、邪、宗、門

及、其、日、深、と、云、引、海、中、に、

一、長、宗、言、里、救、以、為、之、付、私、を、仲、言、方、帳、而、之、也、お、因、り、如、

子、之、百、里、と、有、く、山、原、備、中、を、受、け、り、云、云、

一、十月、廿、二、日、山、原、備、中、海、老、の、言、次、命、表、七、節、言、お、引、如、備、中

言、私、八、節、と、り、取、り、出、今、利、井、助、解、而、取、之、實、人、之、以、附、後、に、

成、室、岡、前、を、外、祐、平、の、守、り、ぬ、言、法、分、心、及、以、行、推、

是より後と我妻國... 爲又其人... 何...  
 此不遠方傳... 亦...  
 其後其人... 勅...  
 對後是國... 申...  
 一 十二月... 傳...  
 其人... 傳...  
 一 南斗... 何...  
 一 少年... 何...  
 一 伊... 國... 南...  
 一 寸... 角... 何...

名... 新羅... 高...  
 一 切支... 佛...  
 一 人... 南... 伊...  
 一 伊... 國... 南...  
 一 後... 海...

一 ともやゆのり日平に渡海は定む日本に事り  
ゆ付ふは度と夫はいたる事りゆ不存方にも大玉有  
しゆ不存方にも大玉有しゆ不存方にも大玉有  
書りゆ不

一 一たりや國日平の進取の内行を中なる事りゆ不  
一 一様はゆ不ゆ不他の事りゆ不ゆ不ゆ不ゆ不  
ゆ不ゆ不ゆ不ゆ不ゆ不ゆ不ゆ不ゆ不ゆ不  
一 日平ゆの流ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
一 一海流海ゆ大急流を介是形のおゆゆゆゆゆゆ  
一 右ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
一 一ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

十二月

十二月七日日平はゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
人ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 異國人はゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 一ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 日平はゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



小阿茶院より南方に南より一は右南東より中傳りて他  
 日弁より南を南より一は右南東より中傳りて他  
 小ルトガル必スハニマ玉のその多く恒在伝あり年々持ち  
 南東人より一は右南東より中傳りて他  
 八日弁より西北の方へありしを新羅百濟高麗と云れ  
 物故も少く一併し併し玉龍國より一は右南東より  
 遠し  
 一切支丹石塔と云ふは法の極なりあるを以て然る由にて  
 此等の傳はるるも佛を以てするも其の然る  
 一人参りたりや玉の南方角より一は右南東より中傳りて他  
 其の然る

一 伽羅く支回國を以てせん  
 一 奉天天皇南東を介するの地は後大國と云ふ  
 一 イタリヤ國を唐と云 下國  
 一 外國より日本に渡海するは三唐土の他中國を以て天  
 竺唐の地を以てするも其の然るも其の然るも其の然るも  
 以てせん大國を以てせん  
 一 日本を南東より北の方へありしを以てせん  
 一 イタリヤ玉の日本の地を以てせんカアボリススアラニスナ  
 ありし大群を以てせん其の然るも其の然るも其の然るも  
 以てせん  
 一 此後申唐を以てせん其の然るも其の然るも其の然るも  
 以てせん

油の取ゆく梅し由の役少はくぬを慮説く事可む梅  
根回しとよぬんそなひ咬唱吧園を介何むとて唐人  
振し由

一日奉徳の所を多行此日本と上國下也ハ暇を執不乃思  
人杯ハ遠望急も有り礼節未可交而のそ腹ハ如賦能  
少はく友し由

一蒼海荒海ヲ鯨松ハ大魚又ハ海丈人魚セロト云々  
るアツトセエの松ぬ款の形也ハ少はく也

以上

一正月廿九日山石を之傷中より公府者ハ成り白雲人創の  
場也と云々云々ハ上馬水ハ及人云々云々の事付ハ後ハ如

通是國人ハ中隊ハ如美志は中皇又日本ハ海ハ切  
支丹宗ハ如ハ一云々云々ハ印の事云々云々ハ  
むロウニ宗門のお目も中付ん事付云々は能事と云々  
上りハ日本人の同慶ハ四方ハ白人口云々云々又ハ唐と  
如ハ云々云々ハ又ハ唐ハ事云々云々ハ云々云々  
尋テハ如ハ云々ハ通ハ云々云々ハ如ハ云々云々ハ  
昔ハ云々云々ハ云々云々ハ又ハ日本ハ像ハ云々云々ハ  
其國のツレハ云々云々ハ日本人の像ハ云々云々ハ  
其者ハ唐ハ唐人の像ハ云々云々ハ東京人の像ハ云々  
右ハ云々云々ハ云々云々ハ云々云々ハ云々云々ハ  
云々云々ハ云々云々ハ云々云々ハ云々云々ハ

教の義以教先く如かり申す事也在り事合し申是國人中  
上てホルトカハフラスをりる事又ハ日本に於て長也  
上りり別が教は此を如かり申す事也在り事合し申是國人中  
を其の如く道を行はる事也在り事合し申是國人中  
徳を以て

英國人の中はの光

一 今より江戸の事は何れも其の如く申す事也在り事合し申是國人中  
この教の如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
今申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中

丑  
十二月廿九日

今村源太右衛門  
如福寺の御  
平川寺の御

平月十日江戸の事は何れも其の如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中  
如く申す事也在り事合し申是國人中

英十<sup>二</sup>年<sup>一</sup>食<sup>二</sup>子<sup>一</sup>海<sup>二</sup>方<sup>一</sup>安<sup>二</sup>中<sup>一</sup>山<sup>二</sup>辰<sup>一</sup>取<sup>二</sup>以<sup>一</sup>通<sup>二</sup>以<sup>一</sup>他<sup>二</sup>上<sup>一</sup>  
 古<sup>二</sup>和<sup>一</sup>子<sup>二</sup>有<sup>一</sup>子<sup>二</sup>之<sup>一</sup>久<sup>二</sup>和<sup>一</sup>信<sup>二</sup>在<sup>一</sup>山  
 二月<sup>一</sup>亥<sup>二</sup>日<sup>一</sup>新<sup>二</sup>乡<sup>一</sup>时<sup>二</sup>以<sup>一</sup>分<sup>二</sup>象<sup>一</sup>是<sup>二</sup>二月<sup>一</sup>亥<sup>二</sup>日<sup>一</sup>已<sup>二</sup>上<sup>一</sup>列<sup>二</sup>在<sup>一</sup>后<sup>二</sup>白<sup>一</sup>

文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋

文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋  
 文化十二年乙亥四月借坎子近藤三齋

曾我物語卷第一

并序 木朝鞍恩合戰謝徳園諍集

夫申日域秋津島從國常立尊以來天神七代  
 地神五代都合十二代神代<sup>トナリ</sup>介置地神五代末御  
 神申<sup>ヲ</sup>早日<sup>ハ</sup>且居尊出御代<sup>ニ</sup>御在治本朝七千五  
 百三十七年其次<sup>ト</sup>出御代御神申大和日高見  
 尊治<sup>ヲ</sup>本朝十二万八千七百八十五年其次出御代御  
 神申早富大足<sup>ヲ</sup>治本朝七千五百十二年其次

富士山本門寺 帝

日義

曾我物語卷第一

初卷ノ初丁



初乞(末)

于暇天文廿三年甲寅卯月五日書し既日義

中早高六尺と云ふ記帳二十五百十

印

嵩山茅十五日為所人初名日義丁正十五年

二月一日遊年五十七 富士山中山寺の寺付也

右曾城相給何人ノ記ノヤ定テ仍書ト知ト

大中日起... 國前...

正徳三年日記

曾於四時...

正徳六丙申年二月

○ 朔の日和夕迄より此大さの暁ありて之を元瀬濱所菊洲  
家中燒りし由例福岡を幸所在病家の内夜も飯田  
町定て消障に或は治りたるを以て檢所行を去らば  
家の角池向公の中にとはち方民氣消へるに大徳り  
て之を採運ひしし一日ありたりと云ふ

○ 二月天氣より中候りの夜お空高を望み一日はこれし  
三月お和帳の上をりし御しし日大さの湯御えん物  
凡例し

○ 何のりお...

○ 五日氣机をけしし日定席にお初め録を焼く

○ 此の葉子... 入... 紙... 包... 入

○ 七日... 紙... 入... 紙... 入

○ 八日... 紙... 入... 紙... 入

一 浅... 一 浅...

○ 十日... 紙... 入... 紙... 入

○ 十一日... 紙... 入... 紙... 入

通り石抄焼存我本町は丁目と鏡文松年同格と仰るが  
 角表五公行創設石抄焼矢付あり小昔傷町曰く丁傳  
 九鬼大隅と仰るが友身焼事あり多岐遠江と仰るが張  
 り矢よりと仰るに水口西へ焼句し  
 ○ナノ風吹し夕中仕無り夜をみせ年とて休指し登り  
 所ちほよとるうかり大木をくみおれ山所目火公り各  
 の焼跡と焼事つり少りゆり  
 ○ナノと氣暑うけ打ちあるよ大さきしおほの地よ  
 一後武メハリ又マ  
 けは所と大木より有材本跡外より馬を松枝あり松  
 ち振りわちかたお取喜身と仰る大工の多きこと一

山多なり他年大工の一百名又及るような在友山ま  
 うやひひの大八車跡外建屋ありと云ふ  
 一末晦の火よりある中勢を備ふあり出なけしゆ交はち  
 康より鬼つと音りけり鬼つ切りしな友けをツ和  
 り所大よりあるよ候愛力しん所つの跡松の志ありん  
 り竹三かよと立老おきしけお本多柳の所内下る  
 所内と後と柳をさるとん大の七百より出りしゆ交は  
 所殿を不七所よりりてとしゆりやあ  
 ○ナノと扱は火より千種二所目と云ふ所石松焼し  
 ナノと扱は

一後川ノ九百と云ふ事

○ナツリ和の...  
 加...  
 主...  
 家...  
 何...  
 ○...  
 昔...  
 ○...  
 今...  
 一...  
 一...  
 一...

藏...  
 一...  
 一...  
 一...

○流は合曾我 本和助保

社成ハ...

...

- 一 和回美盛 仙山彦助 一 一善 市川国市
- 一 一和主 神田彦平 一 一和主 柳山又平
- 一 一和主 市川彦平 一 一和主 富原彦平
- 一 一和主 渡邊彦平 一 一和主 松本彦平

一 大塚虎 為村守文 一 小島海老江 玉後梅原

丙申 申 丁 卯 卯 乙

○ 今日廿七日 火より大なる火ありて人死す少くも火の  
人死す少くも

○ 十日和のり

一 穢物より火あり

一 穢物より火あり

昨日を七つとて川原後為る角の火出ぬ火出ぬ火出ぬ  
火出ぬ火出ぬ

○ 十日 火あり

一 穢物より火あり

一 十日 火あり 日本橋 西へ 杉板 二名 三つ 穢物 穢物

欄干より火焼く 火あり 火あり 火あり

一 十日 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

○ 十日 火あり 火あり 火あり 火あり

火あり 火あり 火あり 火あり 火あり

其後より中より不始焼多し。其の由は焼く焼くし。松平  
越中守隠居中より法焼候多し。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に  
吹くなり。

○ 十の三氣集

○ 其の風吹りして氣が下りて七時程に大なる火のつかり  
言付なつてし。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 其の風吹りして大なる火のつかりて。其の由は遠く  
五七時程に大なる火のつかりて。其の由は遠く深川重白  
院より遠く幸年所焼候し。火のつかりし風の西に吹く  
なり。

○ 丁酉 所記あり又二十斗のちりしゆをハソふとせしあて  
内記止る終りし

○ 丁酉 天氣を消中よりり畜のていふ

○ 丁酉 日利しりて蓄消やしん

○ 丁酉 天候を消中よりり畜のていふ  
積まりしり

○ 今年 信分山の積まりし山を海邊由丹かへ系を積焼  
きりしり

○ 丁酉 日利今もは存陽を系ちり陽たきしり

○ 丁酉 下 天氣より一故度申候し候を系ちりし

○ 丁酉 上 天氣今も系の包根指板等し候し

○ 丁酉 日利しり今も又包根昔よりりし

一 後記のちりしり

申すり彩板本

さいしき候  
一 好色おね系 三光 一口万石松 三光

一 口 一代候 三光 一 後者彩細解 口

一 尻尻候系 三光 一 燈台のちりしり 三光

一 口 ちりしり 三光 一 後者彩細解 口

丁酉

○ 一 火より 振るる 口 後者

以上

申二日記

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに  
 村松所多は所かました所特井留中しき焼く  
 年之百中き切り火降りし雨風と  
 一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに  
 中し若い雨降る所あり雨風の  
 一 朝日初風をけし雨しをくらしたるに  
 雨より火を降る所あり  
 一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに  
 雨大降る所あり焼く村松所あり雨の中あり

焼く所あり雨降る所あり  
 一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに

一 早朝の夜は雨降る所あり大をくらしたるに





是日雨あり

○十日和晴明おのりし大なる地震ありし後此来  
梅のりし

○十日曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

○十日和曇りありし

一 梅のりし

○十方り利量

一後より抄り

一切欠り抄り

一五分七角抄り

未如揚

一古来 南斗之 一柱程幸勿之抄色

一炭三儀三方抄り

○十八、等々天宮へ風吹し抄り

○十九、等々氣風ふげし抄り 東西土綱と上高き風を

○廿、風吹しと氣を

○廿一、曇り雨り

○廿二、雪りし

一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

けり 一後より抄り

○廿三、り利今、ハきり小官

○廿四、本の道了、火りり



申二月卯梅年

未ノ夜月ノ如シ

一世万子皇胤<sup>ハス子ノ胤</sup>變

今迄迄

一今津氏<sup>ウツチノミ</sup>室舟

今迄迄

此老其碩

は後世をくら夜

一好色万室<sup>ハス子ノ胤</sup>希用

今迄迄

一好色万室<sup>ハス子ノ胤</sup>何

今迄迄

○隈所<sup>ウマツ</sup>初記

一式例和曾我

口番候

多川園中<sup>タカハシノ</sup>如<sup>カ</sup>之<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>

一日和日

二十日

一海<sup>ウミ</sup>十日

一火<sup>ヒ</sup>十日

候<sup>コト</sup>三<sup>ミ</sup>日

○隈所<sup>ウマツ</sup>初記<sup>ハジメ</sup>和<sup>ニ</sup>芝<sup>シ</sup>花<sup>ハ</sup>

一官女<sup>ウツナカ</sup>美<sup>ミ</sup>長<sup>ナガ</sup>際<sup>サヘ</sup>

二庭<sup>ニ</sup>候<sup>コト</sup>上<sup>ノ</sup>り

○字<sup>ジ</sup>二月<sup>ニ</sup>記<sup>キ</sup>

○和<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>氣<sup>ノ</sup>長<sup>ノ</sup>宗<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>夜<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>勤<sup>ノ</sup>保<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>和<sup>ノ</sup>言<sup>ノ</sup>初<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>

○和<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>氣<sup>ノ</sup>長<sup>ノ</sup>宗<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>夜<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>勤<sup>ノ</sup>保<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>和<sup>ノ</sup>言<sup>ノ</sup>初<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>

○二<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>和<sup>ニ</sup>隈<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>勤<sup>ニ</sup>保<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>ニ</sup>和<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>初<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>

和<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>氣<sup>ノ</sup>長<sup>ノ</sup>宗<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>夜<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>勤<sup>ノ</sup>保<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>和<sup>ノ</sup>言<sup>ノ</sup>初<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>

○三<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>和<sup>ニ</sup>隈<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>勤<sup>ニ</sup>保<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>ち<sup>ニ</sup>和<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>初<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>

○一式例和曾我

一官<sup>ウツ</sup>女<sup>ナカ</sup>

美<sup>ミ</sup>長<sup>ナガ</sup>際<sup>サヘ</sup>

一上<sup>ノ</sup>庭<sup>ノ</sup>候<sup>コト</sup>

多川<sup>タカハシ</sup>園<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>

一火<sup>ヒ</sup>十日

候<sup>コト</sup>三<sup>ミ</sup>日

一上<sup>ノ</sup>庭<sup>ノ</sup>候<sup>コト</sup>

大<sup>オホ</sup>名<sup>ナ</sup>原<sup>ハラ</sup>

一火<sup>ヒ</sup>十日

候<sup>コト</sup>三<sup>ミ</sup>日

一上<sup>ノ</sup>庭<sup>ノ</sup>候<sup>コト</sup>

中<sup>ナカ</sup>村<sup>ムラ</sup>行<sup>ユキ</sup>

一火<sup>ヒ</sup>十日

候<sup>コト</sup>三<sup>ミ</sup>日

一上<sup>ノ</sup>庭<sup>ノ</sup>候<sup>コト</sup>

多川<sup>タカハシ</sup>園<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>



